

大山町議会議長 米本隆記 様

広報常任委員会 委員長 小谷英介

令和6年大山町議会議員研修報告書

1	日時	令和6年7月23日(火) 13:00-16:00	
2	研修地	三朝町 溪泉閣	
3	研修内容	(内 容)	(場 所)
		「読者を増やす 議会広報紙の編集」 講師 一者自治体広報広聴研究所代表理事 金井茂樹氏 (全国広報コンクール審査員 web サイト部門)	三朝町 溪泉閣
4	研修結果 又は概要	<p>1. 議会の広報広聴活動 広報広聴の定義： 「自治体広報の理念にもとづいた多面的コミュニケーションの実践により自治体（行政・議会）と市民の双方の意識・行動変容を促進し、<u>両者の信頼・協働関係を構築・維持すること</u>＝関係づくり」</p> <p>➤ なんのために広報広聴活動をするのか？</p> <ul style="list-style-type: none">・地域課題の情報共有、問題意識の共有（広報）・課題解決への共感、参加（広報）・市民セクターの課題解決行動・声を把握（広聴）・調査・視察による課題に関する情報収集（広聴） <p>「情報なくして参加なし」</p> <p>2. 議会広報紙の企画と編集</p> <p>➤ 選択と集中。関心のない人にとって読まないようなトピックは、思い切 って載せないことも大事。人事案件、条例など</p> <p>➤ フォントの大きさの目安</p> <p>本文：10pt 小見出し：20pt リード文：20pt-30pt 大見出し：40pt</p> <p>➤ 表の罫線・枠線・区切り線</p> <ul style="list-style-type: none">・細く、色薄く（存在感をなくす） <p>エクセルの表などでも、サイドの縦線などなくすことでみやすくなる</p>	

大見出しは、本文の4倍程度

3. 議会広報紙クリニック

➤ 大山町の議会だよりへの指摘

海の拠点の特集について、コンテンツの順番などを、何も知らない読者でもわかるように、もっと改善ができるのではという指摘を受けた。

感想

<近藤>

広報広聴のポイントとして、行政・議会と住民の相互の信頼・協働関係が重要であるとのことでした。大山町議会広報の編集方針である「分かりやすく、読みやすい」ことは当然重要ですが、広報活動を通じてより良い地域づくりを進めるためには、町民とのコミュニケーションをさらに深め、町民に伝えるべき内容や記事、町民が必要としている情報や施策を常に意識することが大切であると改めて感じました。

<池田>

今まで感覚でしかなかった、見出しやリード文などの文字のフォントなど編集の基本をあらためて学べた。マニュアルに落とし込むべきもののイメージに繋がった。

作る側では当たり前のことでも、初めて読む側の視点に立っての誌面づくりや、伝えたいものの表記方法など、伝える=伝わるではなく、伝える=理解する誌面づくりの手法を、県内の町村や全国の入賞広報誌をもとに学べた。全国的にデザイナーが入ったかのような、劇的に変わった広報誌が多く見られたのが印象的であった。

ここからは余談ですなにか、県内の町村も広報誌のリニューアルに取り組んでいるという声が多かったように思えました。広報誌の戦国時代がはじまったかのように感じました。

<小谷>

講義では、広報広聴活動の意義・目的の話から、AIDMAやAISASなど、いかに住民の行動変容に至るまでのプロセス、議会だよりのみならずあらゆる手段を通じた活動について幅広く学ぶことができました。特に、意義・目的の部分は直近の広報常任委員会でも意見交換をしたばかりで、大変参考になりました。特に、「情報なくして参画なし」という言葉は今後、大事にしていきたいと思いました。

大山町議会の広報常任委員会としては「まち全体を議場へ」をスローガンに、町のあらゆる場所で町の未来について話し合われる状態を目指しています。それには住民参画が不可欠であり、その前提として、信頼関係・当事者意識・情報の3つが必要であると整理しました。今回の研修では、その方向性が間違っていないことを確認できました。

以上